

コロナ下における心の課題に 関する報告

コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会資料

関西国際大学 中尾繁樹

「コロナ以降に心が重くなった」 性別集計

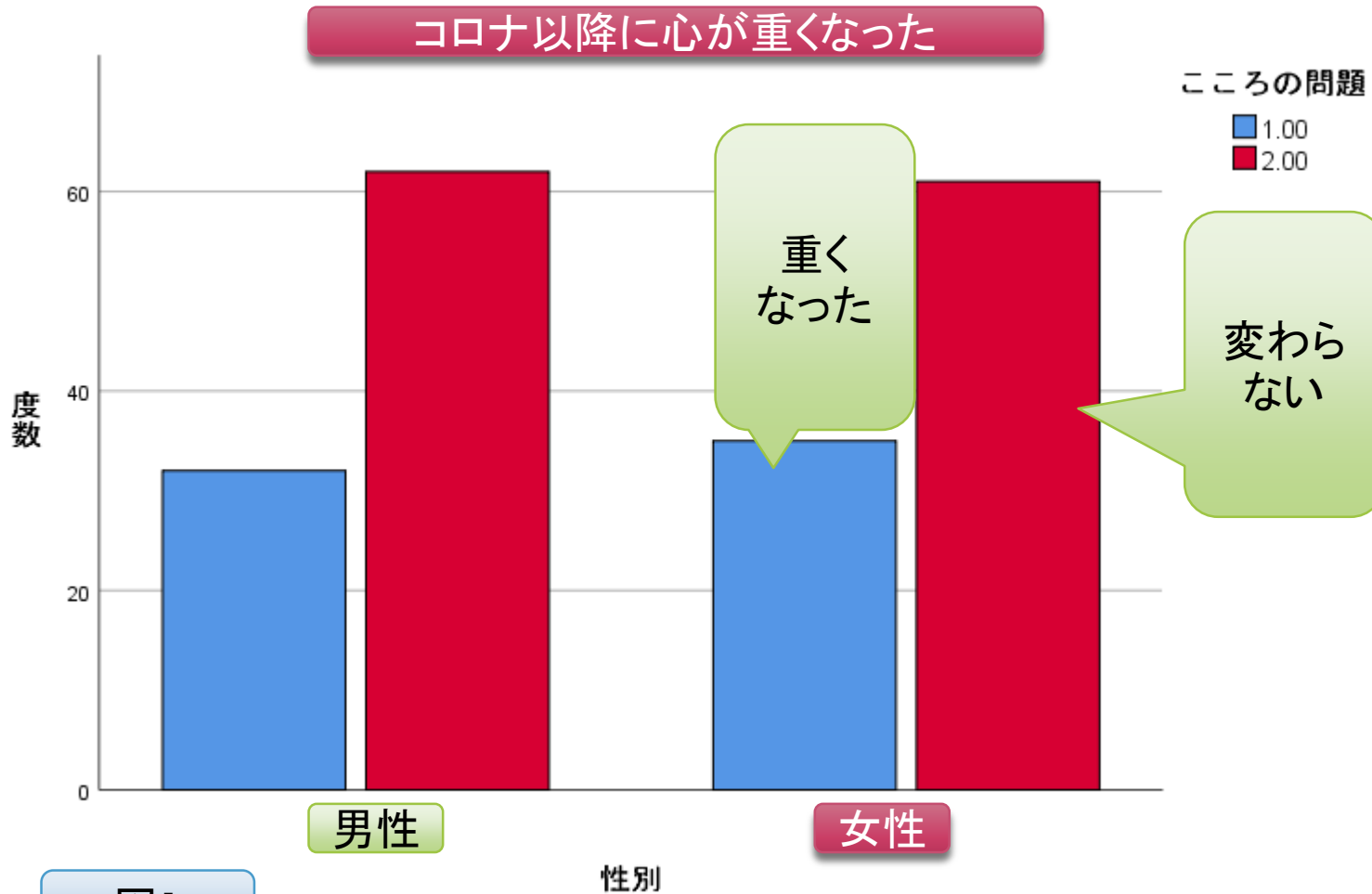


図1

図1から

- コロナ以降に「心が重く感じた」「なんとなくしんどくなった」等の数は男女の有意差は認められなかった。

クロス表				
度数				
		こころの問題		合計
		1.00	2.00	
性別	1.00	32	62	94
	2.00	35	61	96
合計		67	123	190

「人生が嫌になったり、あきらめたくなったりしたことがある」 性別集計

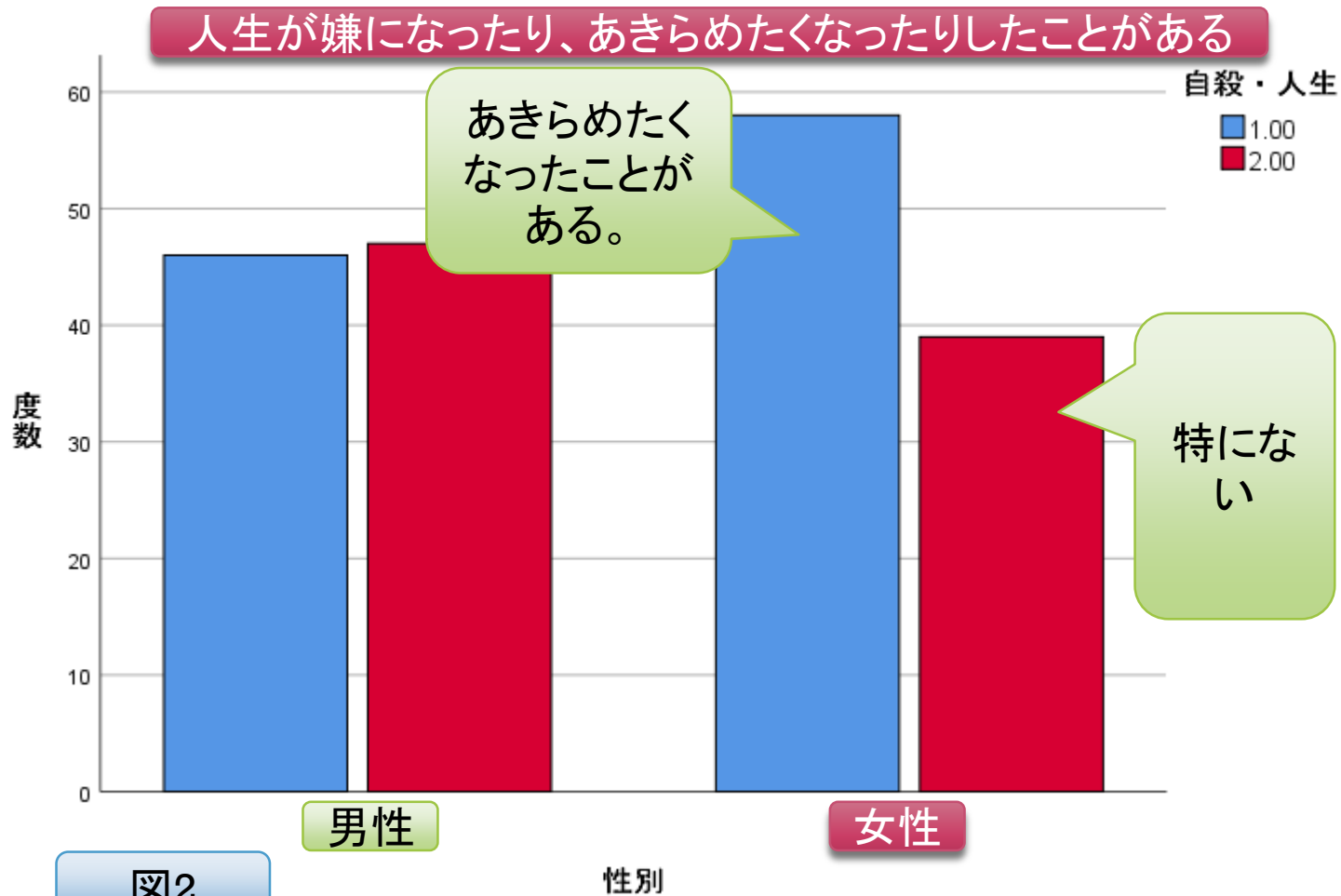


図2

図2から

- 「人生が嫌になったり、あきらめなくなったりしたことがある」ことに関しては男女間の有意差は認められなかったが、度数的には女性のほうが多い。

度数		自殺・人生		合計
		1.00	2.00	
性別	1.00	46	47	93
	2.00	58	39	97
合計		104	86	190

「コロナ以降に心が重くなった」 「人生が嫌になったり、あきらめたくなったりしたことがある」 性別集計

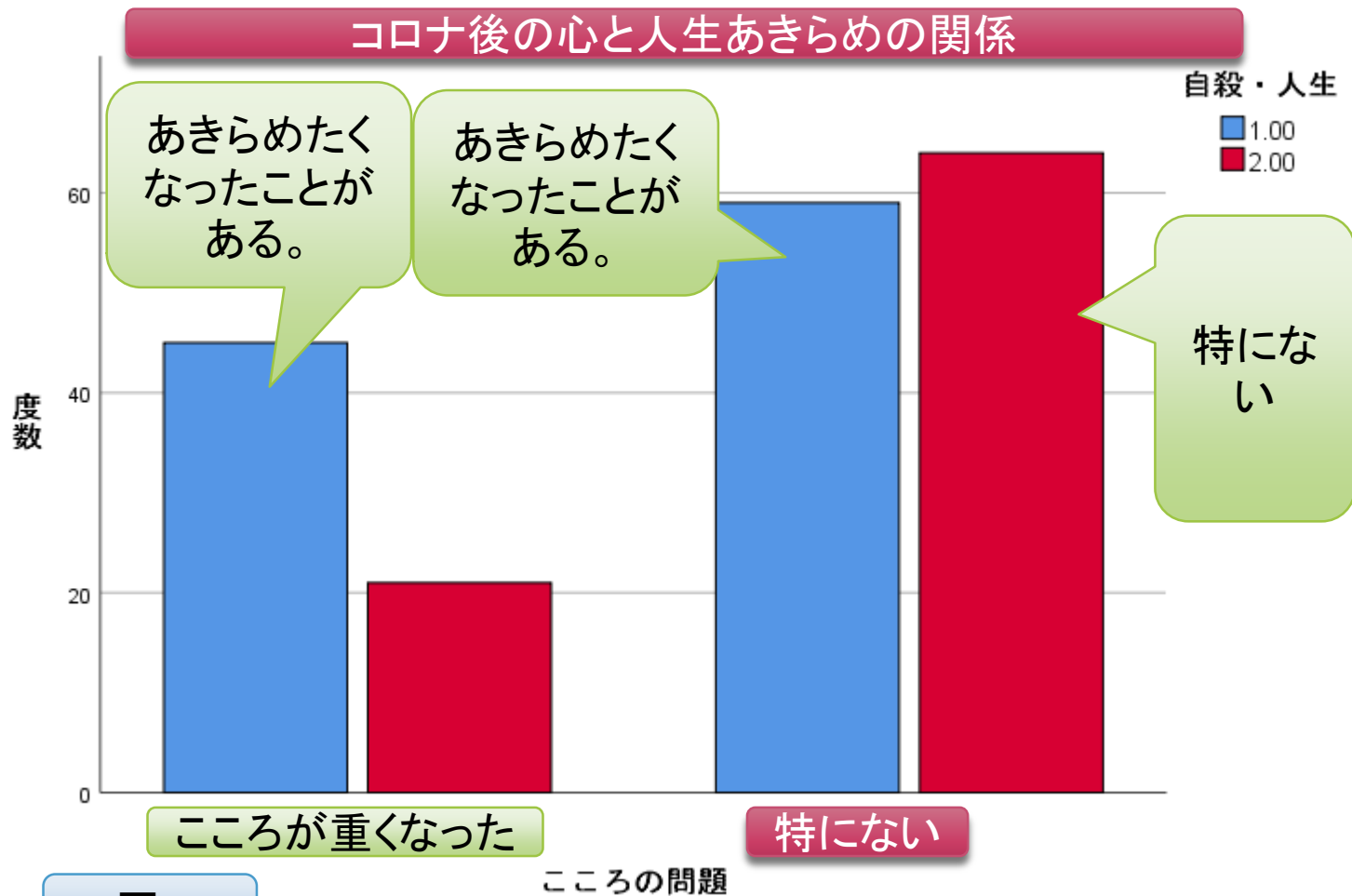


図3

図3から

- 「コロナ後に心が重くなった」学生が「人生が嫌になったり、あきらめなくなったりしたことがある」学生は男性のほうが優位に高かった。
($p < 0.01$)
- コロナ後には特に何もなかった学生に、「人生が嫌になったり、あきらめなくなったりしたことがある」学生が多いのが注意すべき事項である。

困ったときの第一相談者

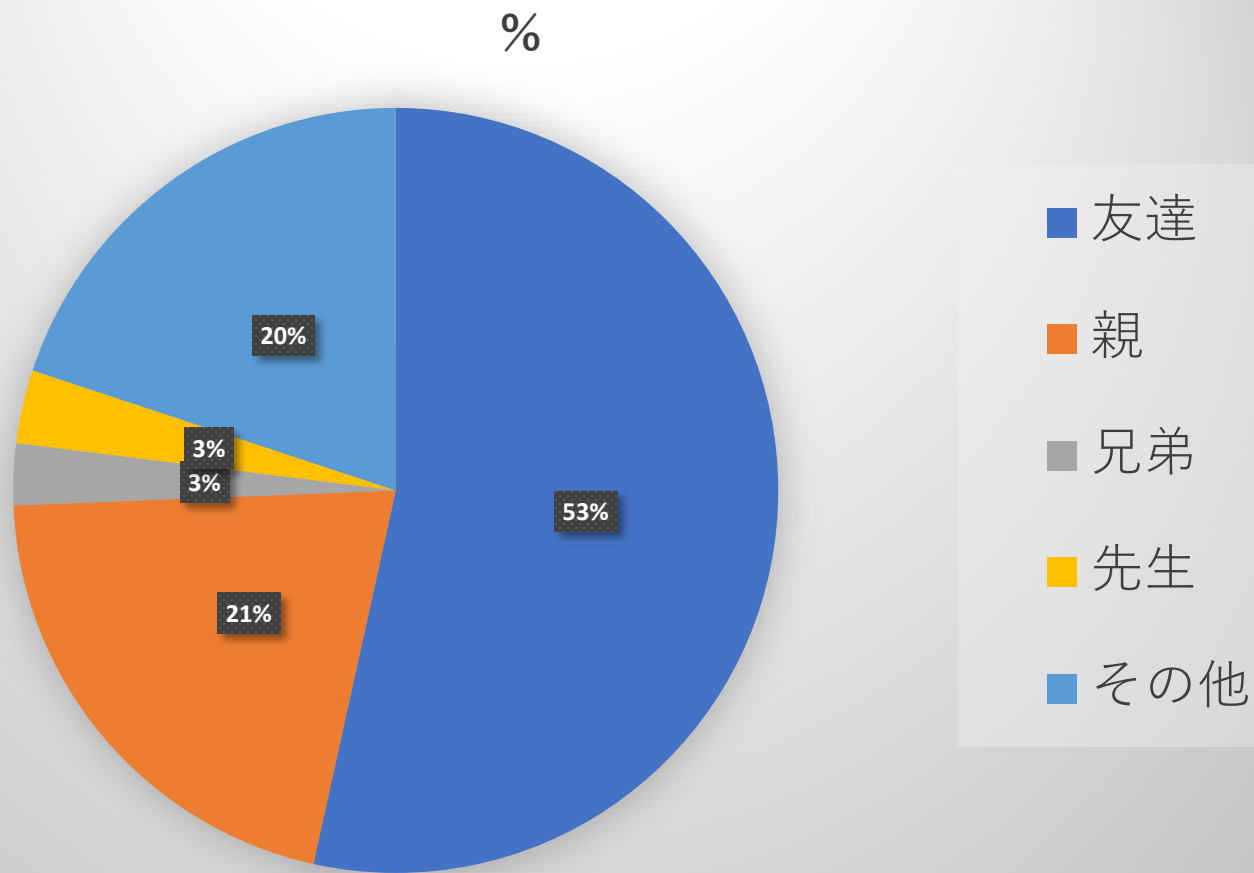


図4

大学として心の問題への取り組み

こころの問題への取り組み(K大学の事例)

1年次~4年
次每学期アド
バイザー面
談

学科全体で
の把握

専門家・心
理・医療相談

初年次教育

アドバイザー
面接

アドバイザー・
学生相談室
相談

入学前教育・調査

保健調査

学生相談室調査

中尾個人への相談

- コロナ以前の相談数 5名(女性3名、男性2名)(リストカット、自殺未遂、ひきこもり、不登校他)年齢7歳~40歳
- コロナ以降(4~10月) 15名(女性10名、男性5名)(リストカット、自殺未遂、ひきこもり、家庭内暴力、不登校、不安障害他) 年齢4歳~40歳
- コロナ以降(11月以降)23名(女性16名、男性7名))(リストカット、自殺未遂、ひきこもり、家庭内暴力、不登校、不安障害他) 年齢4歳~40歳
- 今のところ予後は順調。相談形態(対面、メール、ライン、電話、訪問他)
- 以上以外に園や学校、幼児児童生徒等の個別相談も含めると年間100件を超える。
- 特別支援教育士SV、教師としての対応

<学校・幼稚園・保育所等におけるリスクマネジメントの意義>

<p>Crisis(危機)</p>	<p>既に発生した事態</p>	<p>既に発生している学習困難、自尊感情の低下、他の事象等に対して、そこから受けるダメージをなるべく減らそうという発想である。⇒ほとんどの学校で取り組まれている実践? 的確な実態把握ができていないための二次的・三次的な問題の防止ができていない</p>
<p>Risk(リスク)</p>	<p>いまだ発生していない危険</p>	<p>これから起きるかもしれない危険に対して、事前に対応しておこうという行動⇒的確な実態把握に基づいた指導体制づくり⇒未然防止</p>

1) 二次障害を予防するための視点

- ① 未然防止のアプローチ
- ② 子どもや保護者の尊厳重視のアプローチと教師の指導力・授業力
- ③ 手段と目的の区別
- ④ 的確な実態把握

これから求められる取り組みの基本⇒**Crisis**と**Risk**を考えた取り組み

実態把握⇒こころとからだのアラインメント⇒覚醒レベルの向上⇒家庭・学習基盤の確立⇒適応・学習能力の向上⇒自尊感情の向上⇒生きる力の再点火